

令和6年度 流山市立江戸川台小学校 学校経営方針

学校教育目標

「人間性豊かな、主体的に考え行動する子どもの育成」

*人間性豊かな = 自分を大切にする・他の人の良さも認め大切にする

*主体的に考え行動する = 学びを活かし、幸せを創る

1 はじめに

子どもに関わる全ての人々の力を結集して、指導・支援にあたる。
(チーム学校の推進)

2 めざす子ども像

①えがお (人間性豊かな) いっぱい

自分も友達も大切にする子・思いやりのある子
あいさつを大切にする子

②どくしょと ギガで (主体的に考え) ③わくわく

主体的に課題をみつける子・学んだことを活かす子

④だい すき (行動する) えどがわだいい

あきらめず課題に取り組む子・進んで体をきたえる子
まずはやってみる チャレンジ

3 めざす教師像

子どもに寄り添い、可能性を引き出し伸ばす教師

4 めざす学校像

子どもが自信と誇りを持ち、保護者・地域に信頼される学校

5 学校経営の基本方針

- (1) 安全安心な生活ができる学校
- (2) 子どもの良さや可能性を引き出し伸ばす学校
- (3) 資質・力量向上のため切磋琢磨する学校
- (4) 組織的に活動する学校
- (5) 保・幼・小・中・特別支援学校、地域等との連携を大切にする学校

学校教育目標

人間性豊かな 主体的に考え行動する 子どもの育成

【めざす子ども像】

① **えがお**（人間性豊かな） いっぱい

自分も友達も大切にする子・思いやりのある子
あいさつを大切にする子

② **どくしょと ギガで**（主体的に考え） **わくわく**

主体的に課題を見つける子・学んだことを生かす子

③ **だい** すき（行動する） **えどがわだいい**

あきらめず課題に取り組む子・進んで体をきたえる子
まずはやってみる チャレンジ

確かな学力

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための授業実践
- 算数をはじめとした基礎基本の徹底
- 読書とギガでブレンド型教育

豊かな心

- 基本的な生活習慣の確立
- 豊かな人間関係づくり
- 多様な体験活動
- 静かに清掃・元気にあいさつ

健やかな体

- 進んで体を鍛える場の設定
- 命と健康を大切にする教育の推進
- 安全確保と危険防止

「チーム江戸小」で子どもを育む取り組み

- 子どもと共にあることを優先する
- 特別支援教育体制の充実
- 生徒指導体制の充実
- 児童理解を基盤とした学級経営
- 業務改善への積極的な取組

地域とともにある学校

- 家庭・地域の教育力を生かした協働の取り組み
- 地域行事等への積極的な関わり

～主な取り組み～

学力の向上

- ① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるための授業実践
 - ・教科担任制による専門性を生かした授業
 - ・教材研究の時間の確保
 - ・ICTを積極的に活用することで、新たな学びのスタイルを築く。
- ② 算数をはじめとした基礎基本の徹底
 - ・学習規律→学力→自己有用感（いい行動に着目し、褒め、定着させる）
 - ・学び方（指導過程）を整える。
（めざすゴールを明らかにする→自分の考えをもつ→2～3人で話し合う→全体で話し合う
→適用→自分の言葉でふりかえりをし、まとめる）
 - ・基礎基本を繰り返す。家庭学習のやり方を指導する。
- ③ 読書とギガでブレンド型教育の推進
 - ・日常の読書活動の推奨
 - ・ICT機器の活用

気力の充実

- ① 基本的な生活習慣の確立
 - ・早寝・早起き・朝ごはん
 - ・手洗い・うがい・外遊び
 - ・あいさつ 返事（お:大きな声で は:はっきりと じ:自分から き:気持ちをこめて）
- ② 豊かな人間関係づくり
 - ・異年齢交流（にこにこ学級）
 - ・地域の方々との交流（総合的な学習の時間を軸に）
 - ・道徳教育の充実（年1回は道徳の授業を授業参観で公開）
- ③ 多様な体験活動
 - ・意図的・計画的な体験活動を立案・実施する
 - ・教科横断的に学習を仕組む
 - ・地域連携教員と学校支援コーディネーターの活用

体力の育成

- ① 進んで体を鍛える場の設定
 - ・外遊びの奨励・ロング昼休み（運動の日常化）
 - ・運動能力テスト等の結果から、実態に応じた準備運動等
 - ・外部人材の活用検討
- ② 命と健康を大切にす教育の推進
 - ・防災・不審者対応等訓練
 - ・養護教諭、栄養士などとの協働の取り組み（授業等）AED・エピペン
 - ・関係機関との連携
- ③ 安全確保と危険防止
 - ・着実かつ効果的な安全点検の工夫
 - ・意図的、計画的な交通安全指導

- ・危険回避能力向上のための指導

「チーム江戸小」で子どもを育む取り組み

- ① 子どもと共にあることを優先する・児童理解を基盤とした学級経営
 - ・子どもの話をよく聞く、様子をよく見る ちょっとした変化を見逃さない
 - ・授業、休み時間、給食、掃除、クラブ、委員会、部活等 子どもの情報を共有し活かす
- ② 生徒指導体制の充実
 - ・報告・連絡・相談を大切にし、組織で対応する。
(担任→学年主任→生徒指導主任→管理職→対応)
 - ・いじめに対する早期発見・早期対応できる体制の充実
江戸小いじめ防止基本方針を全職員が順守し、だれでも安心して活動できる学級を構築する
 - ・児童の状況は、記憶ではなく記録に残す。
- ③ 特別支援教育体制の充実
 - ・特別支援コーディネーターを中心にしたケース会議→対応
 - ・通常級の特別支援の必要な児童の情報共有
- ④ 業務改善への積極的な取り組み
 - ・ICTを有効活用した具体的な取り組みの職員間共有
 - ・地域との連携の強化

地域とともにある学校

- ① 家庭・地域の教育力を活かした協働の取り組み
 - ・保・幼・小・中・特別支援学校等そして地域と連携した教育活動の充実
 - ・地域連携教員と学校支援コーディネーター、職員との連携の強化
 - ・地域・保護者等と連携した教育活動の成果の周知
 - ・家庭とのつながりを深めるために良いことを積極的に伝える。
(方法：電話、連絡帳、一筆箋を連絡帳に、スクールライフノート)
 - ・地域の方々に授業に入っていただく機会をつくる。
 - ・学年だより等に子どもの様子、家庭や地域の方々への感謝を常にのせ、協働を推進する。
 - ・学校だより・HPを通じて、学校の様子を積極的に発信していく。教職員で内容を共有し、共通の行動をしていく。
 - ・HPのタイムリーな更新(学年ごとに担当者を決め、更新をする)
- ② 地域との積極的な関わり
 - ・地域行事への積極的な協力(部活動の参加等)
 - ・ポスター作品等の参加協力
 - ・学校行事等の案内